



Creating for the Future

いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。

2024年3月期 第2四半期 決算補足説明資料

2023年11月2日

SWCC株式会社

1. 2023年度第2四半期決算概要
2. 2023年度通期業績計画
3. 「資本コストを意識した経営の実現に向けた対応」の進捗

1. 2023年度第2四半期決算概要

2023年度 第2四半期決算 概況

経営環境

- 経済活動の正常化や賃上げの加速、緩和的な財政・金融政策などが下支え。
- ロシア・ウクライナ情勢の長期化や円安進行により原材料・エネルギー価格等が高止まり。
- 自動車関連市場では、挽回生産が本格化し、xEV関連市場も回復の傾向。
- 電線業界においては、電線全体の需要は前年同四半期並み。
- 銅の国内建値平均価格は、前年同四半期より微増。

売上高

当期事業計画は例年よりもやや下期偏重の計画。2 Q実績は**前年同四半期比減収**。

【主な事業分野別状況】

エネルギー・インフラ・・・電力工事の下期偏重を堅調な建設関連が補う。

自動車・・・・・・・・・・xEV向け製品は1 Qで底打ちもコロナ前の需要回復に向けて調整局面。

産業用デバイス・・・・・・コロナ特需の一部需要剥落。

営業利益

電力インフラは期初想定どおり下期偏重で進捗するも、建設関連の堅調な業績を受けて**前年同四半期比増益**。**これを受けて、通期計画を上方修正**。

2023年度 第2四半期 連結業績 P/L

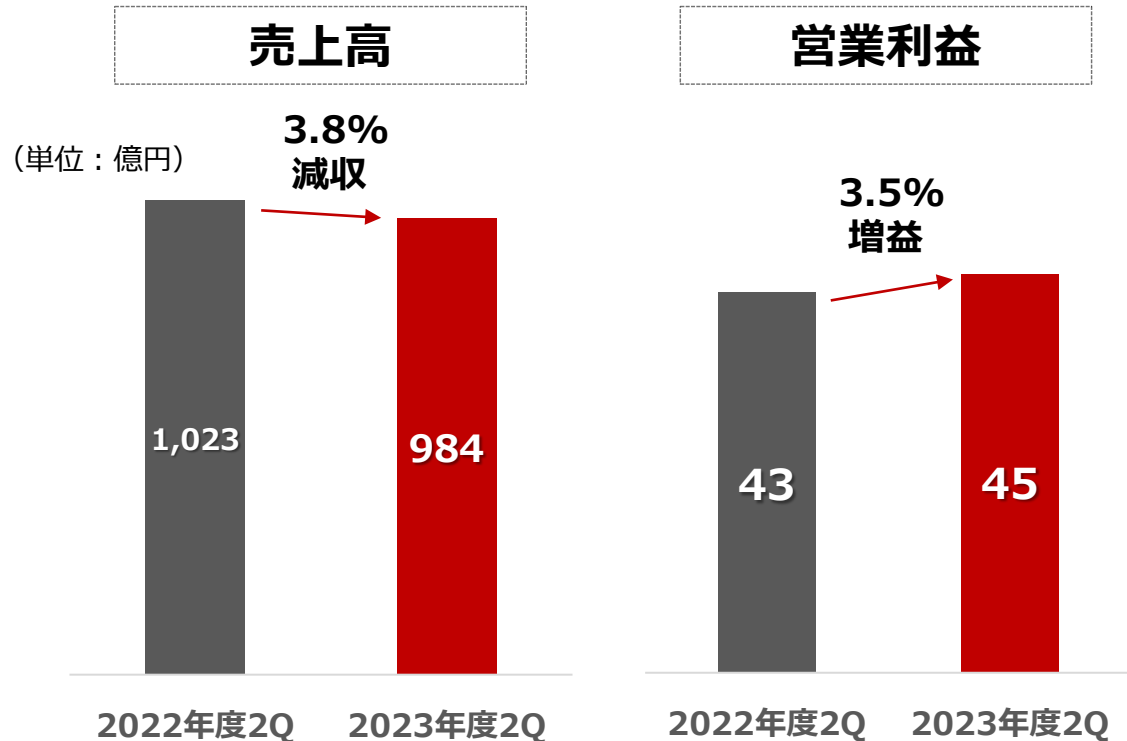
上期の建設関連の堅調な業績と下期の需要取り込みを見据え、**通期計画上方修正**。営業利益・経常利益とも過去最高益を見込む。

| (単位：億円、%) | 2022年度 2 Q実績 | 2023年度 2 Q実績 | 前年同 四半期比 | 進捗率 % | 2023年度 通期計画 (修正前) |
|--------------------------|-----------------|-----------------|-------------|----------|-------------------------|
| 売上高 | 1,023 | 984 | ▲39 | 45.8% | 2,150 (2,150) |
| 営業利益 | 43 | 45 | 2 | 38.8% | 115 (107) |
| 営業利益率% | 4.2% | 4.5% | 0.3% | — | 5.3% (5.0%) |
| 経常利益 | 44 | 45 | 1 | 38.9% | 115 (106) |
| 親会社株主に 帰属する 四半期純利益 | 37 | 33 | ▲4 | 43.9% | 75 (70) |

2023年度 第2四半期 決算のポイント

2Q前年同四半期比

当期の事業計画は下期偏重により**減収**も、建設関連での堅調な業績を受けて**増益**。



2Q進捗率

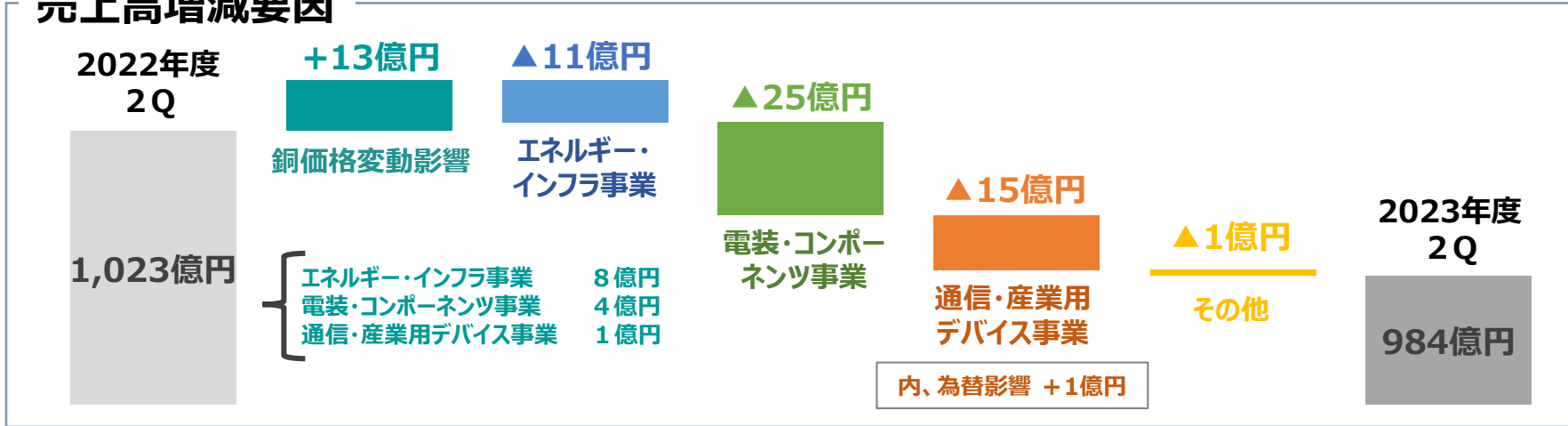
売上高および営業利益の進捗率は**下期偏重の期初想定（上期30%下期70%程度）よりも好調に推移**。

| (単位：億円) | 通期計画 | FY19-22 平均進捗率 | 2Q進捗率 |
|---------|-------|------------------|-------|
| 売上高 | 2,150 | 47.8% | 45.8% |
| 営業利益 | 115※ | 43.1% | 38.8% |

※利益は通期計画上方修正後の値。

2023年度 第2四半期 増減要因 (前年同四半期比)

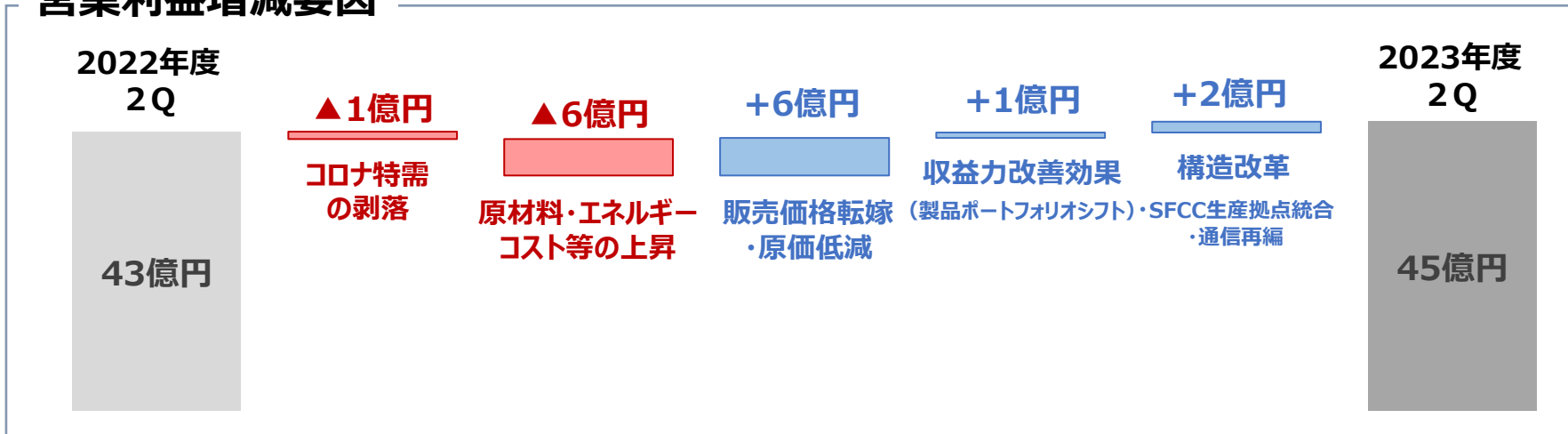
売上高増減要因



【増減要因】

1. 売上高
期初想定通り、全般に件名が下期偏重となるなか、xEV向け製品の需要調整局面およびコロナ特需の剥落により**前年同四半期比減収**。

営業利益増減要因



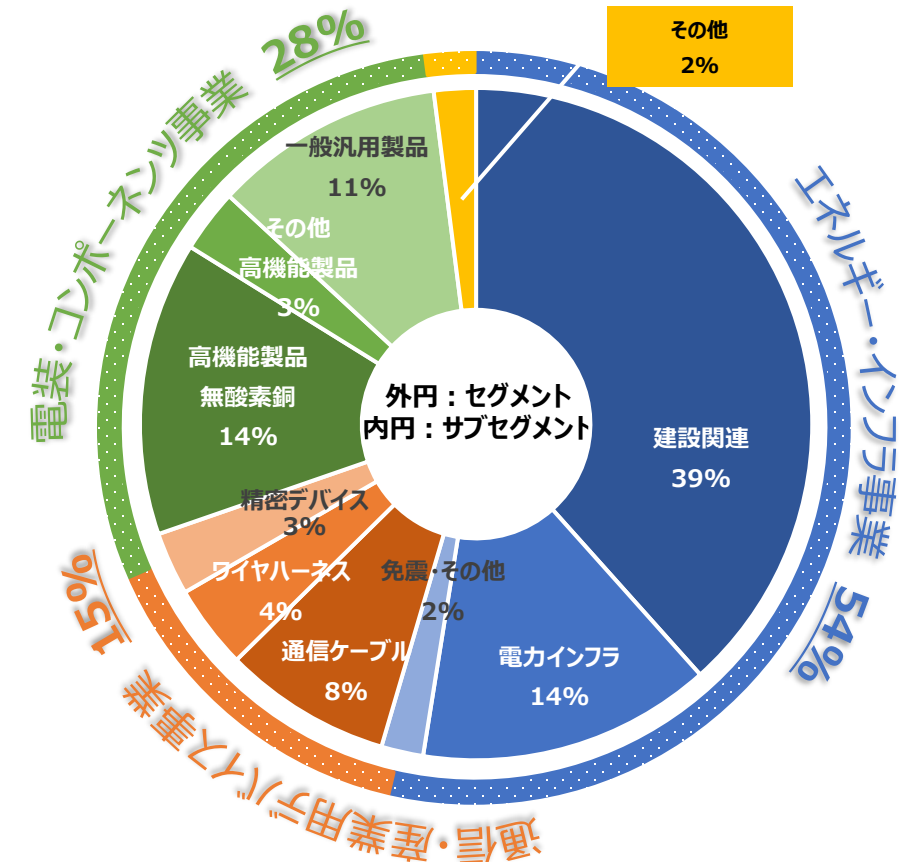
2. 営業利益
原材料・エネルギーコスト等の上昇を販売価格転嫁・原価低減でカバー。不採算製品の撤退や構造改革による収益改善が寄与し**前年同四半期比増益**。

2023年度 第2四半期 セグメント業績

期初想定どおり下期偏重の見通しのなかで、建設関連が全体の業績を牽引（売上構成比約4割）。主に中国・ベトナムで製造・販売しているワイヤハーネスおよび精密デバイスはコロナ特需の剥落の影響を受けるも全体への影響は限定的（売上構成比約7%）。

| | 2022年度2Q 実績 | | 2023年度2Q 実績 | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | 売上高 | 営業利益 (利益率%) | 売上高 | 営業利益 (利益率%) |
| ● エネルギー・インフラ事業 | 539 | 32 (6.0%) | 536 | 33 (6.1%) |
| ● 電装・コンポーネッツ事業 | 299 | 11 (3.5%) | 278 | 9 (3.1%) |
| ● 通信・産業用デバイス事業 | 164 | 5 (2.8%) | 150 | 7 (4.6%) |
| ● その他 | 22 | △4 | 20 | △4 |
| 合計 | 1,023 | 43 (4.2%) | 984 | 45 (4.5%) |

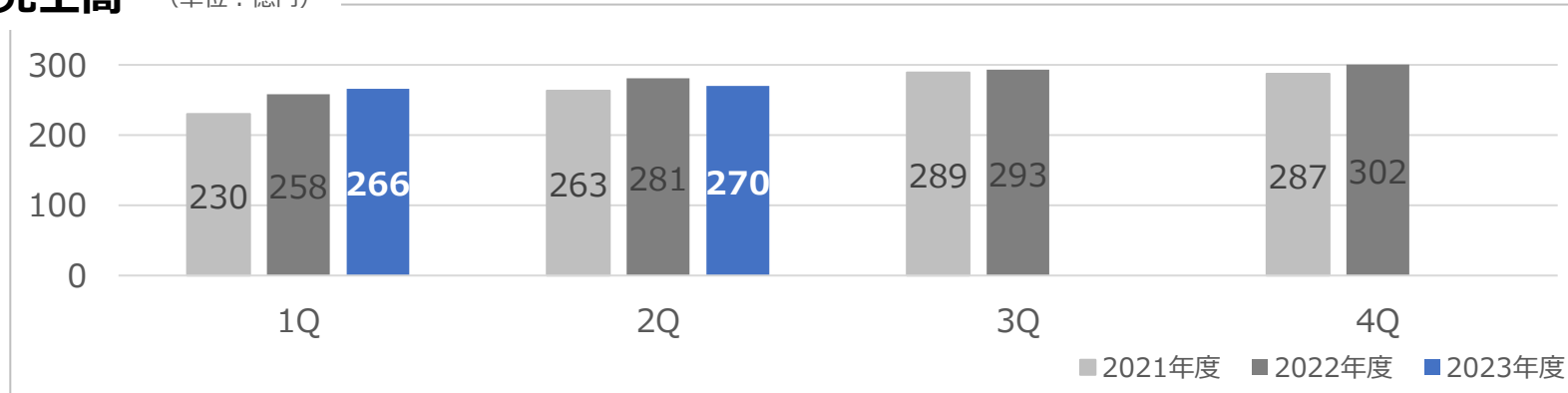
2023年度2Q実績
セグメント売上高比率



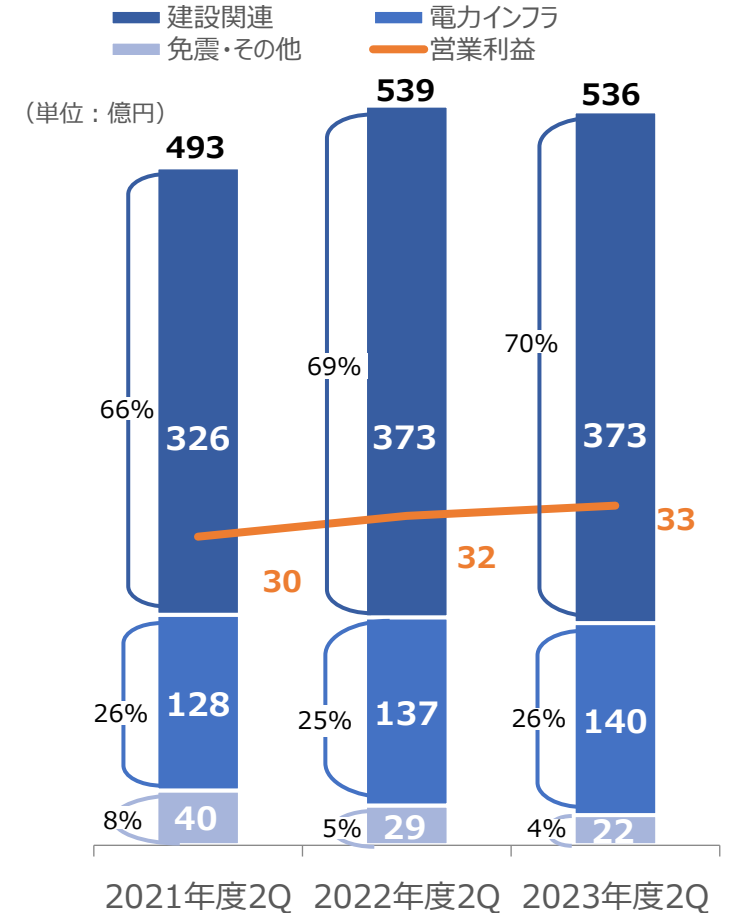
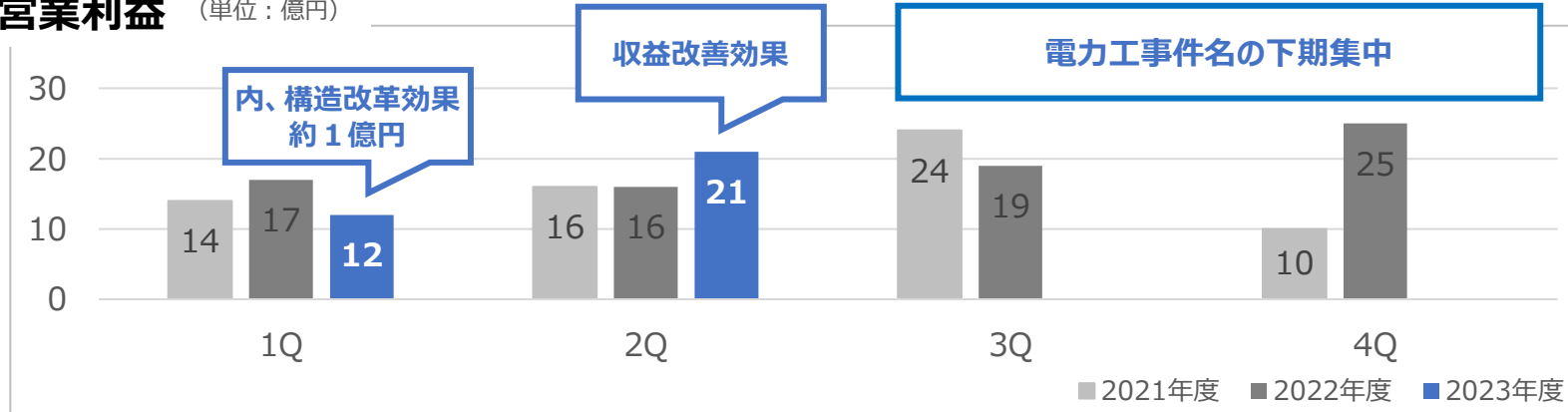
2023年度 第2四半期 エネルギー・インフラ事業

電力工事の下期偏重を堅調な建設関連が補う。建設関連の生産拠点統合効果を含め、各種収益改善の取り組みにより、前年同四半期比減収・増益。

売上高 (単位：億円)



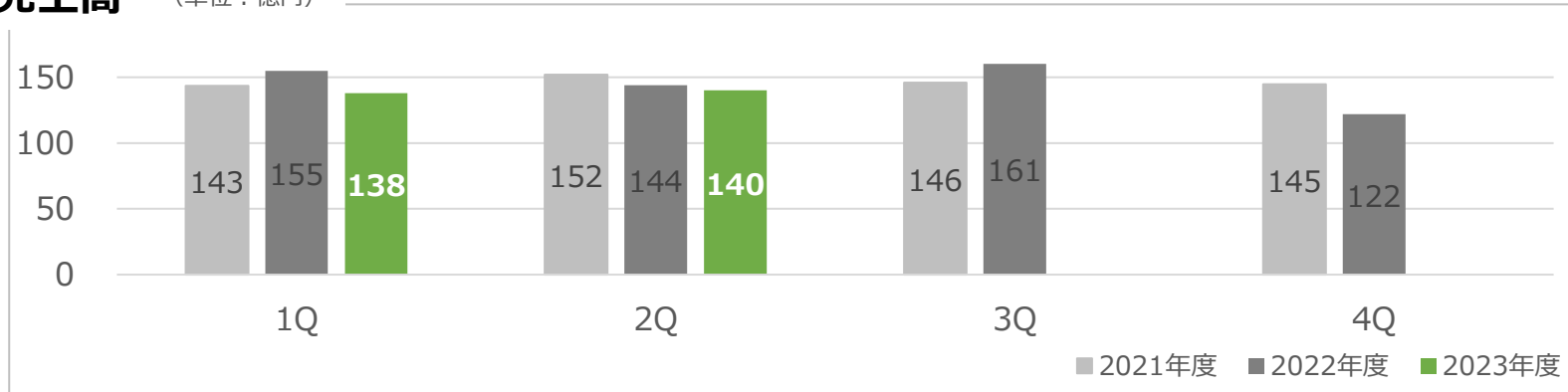
営業利益 (単位：億円)



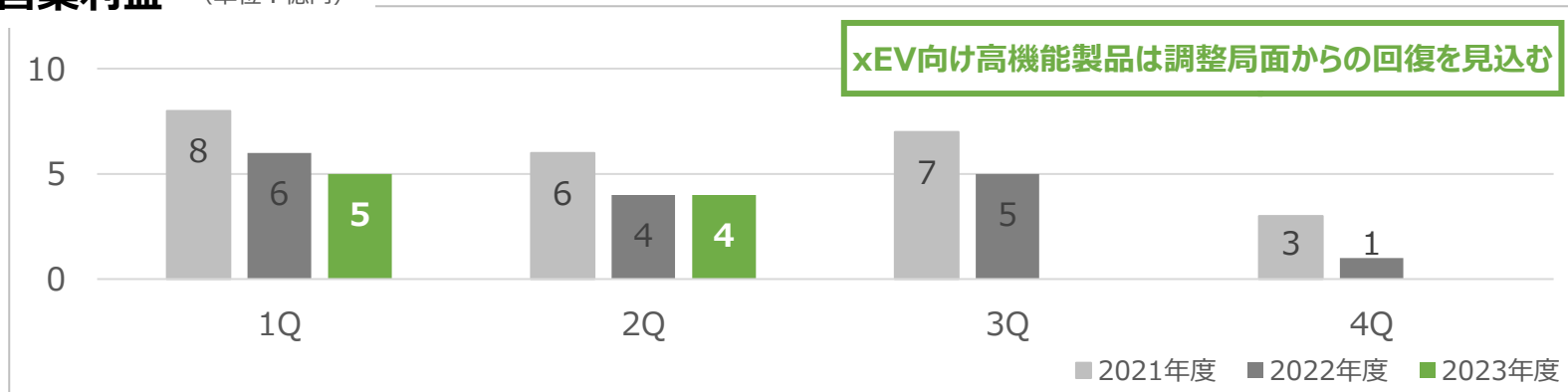
2023年度 第2四半期 電装・コンポーネンツ事業

重電向け汎用巻線は堅調に推移。一方、**xEV向け製品の需要**は前年同四半期に比べ低調も**調整局面を脱しながら推移し、前年同四半期比減収・減益。**

売上高 (単位：億円)

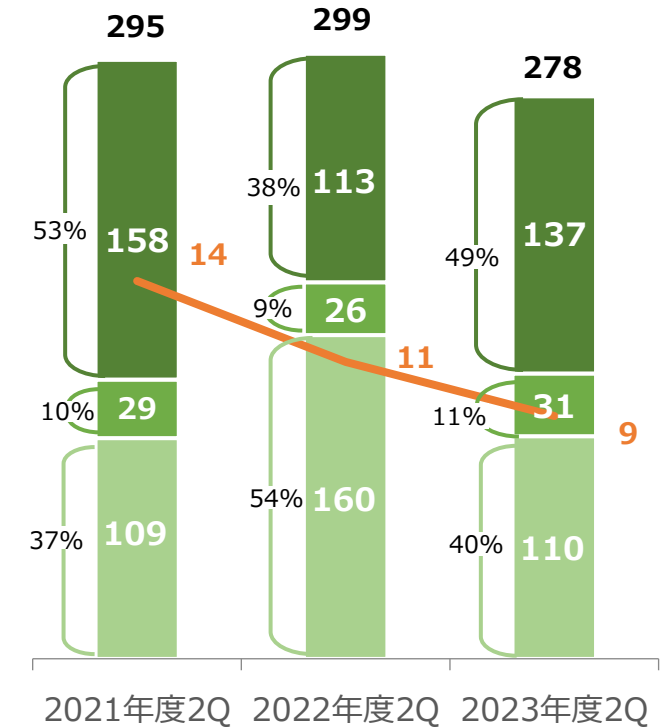


営業利益 (単位：億円)



■ 高機能製品無酸素銅 ■ その他高機能製品
■ 一般汎用製品 — 営業利益

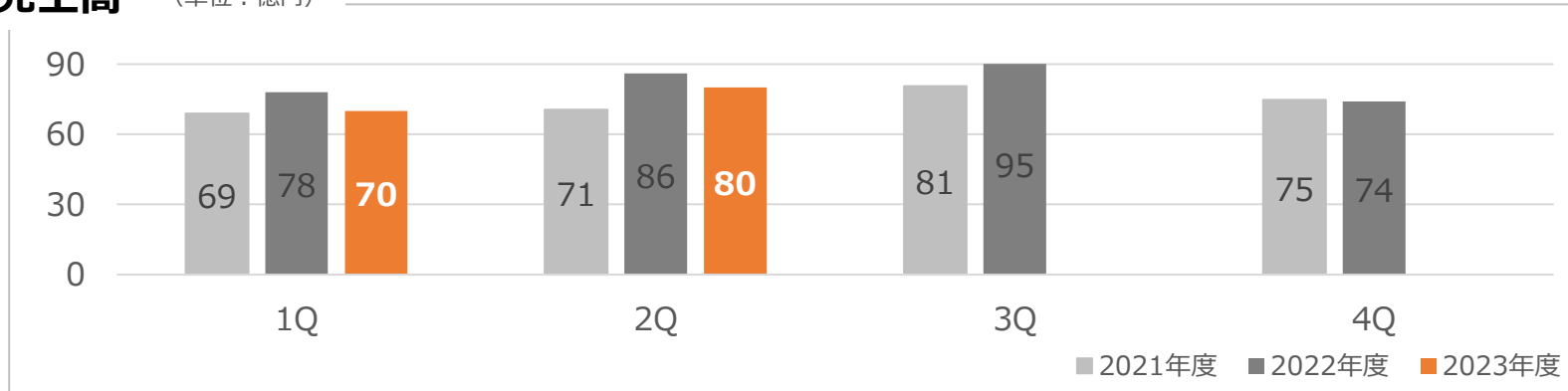
(単位：億円)



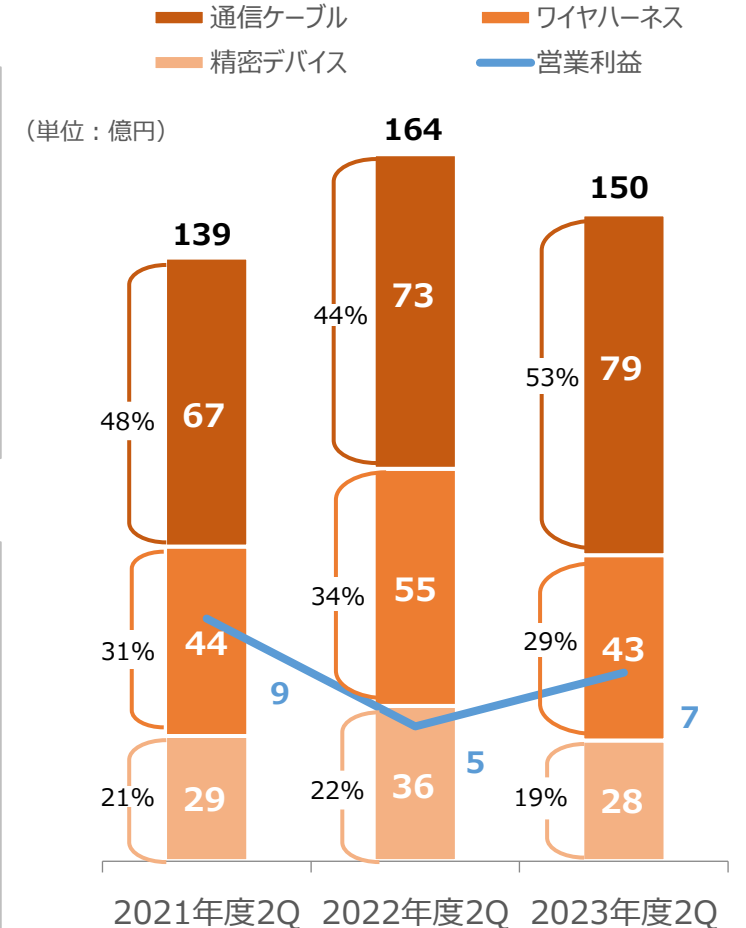
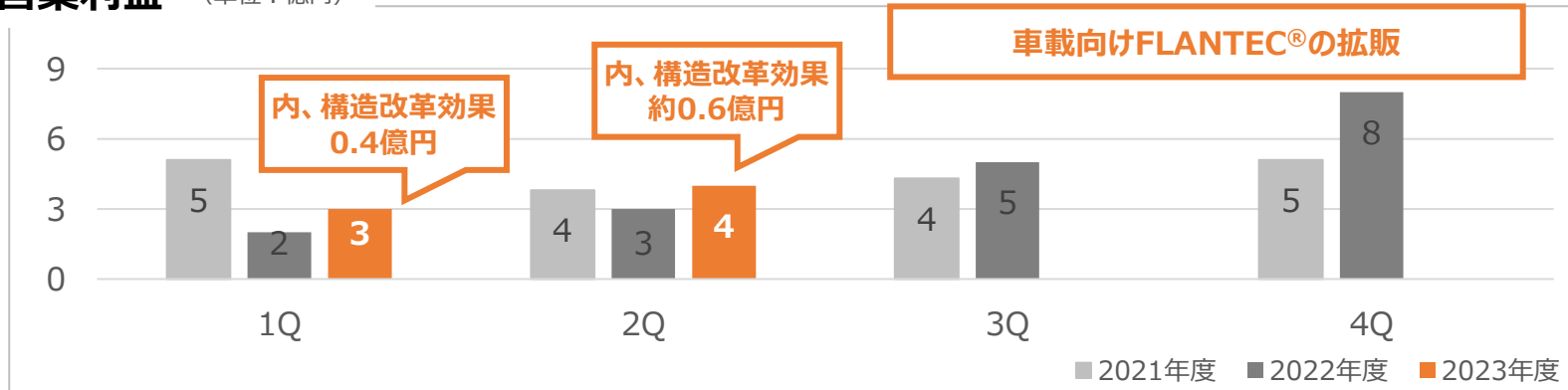
2023年度 第2四半期 通信・産業用デバイス事業

ワイヤハーネスおよび産業用デバイスは一部コロナ特需の剥落による影響を受けるも、**通信ケーブルの売上増、国内生産拠点の再編と適正価格販売の効果でカバー。前年同四半期比減収・増益。**

売上高 (単位：億円)



営業利益 (単位：億円)



2023年度 第2四半期連結業績 B/S (前期末比較)

| (単位：億円) | 2022年度末 | 2023年度 2Q | 増減 |
|-----------------|--------------|--------------|--------------|
| 資産合計 | 1,567 | 1,518 | ▲48 |
| 売上債権 | 527 | 482 | ▲45 |
| 棚卸資産 | 282 | 293 | 12 |
| 固定資産 | 646 | 616 | ▲30 |
| 負債合計 | 883 | 811 | ▲71 |
| 仕入債務 | 249 | 241 | ▲7 |
| 有利子負債 | 412 | 340 | ▲72 |
| 純資産合計 | 684 | 707 | 23 |
| 自己資本 | 675 | 697 | 22 |
| 自己資本比率(%) | 43.1 | 45.9 | 2.8 |
| DEレシオ(%) | 61.0 | 48.7 | ▲12.3 |

【棚卸資産】

2Q以降の需要拡大を見越した在庫確保のため棚卸資産が増加。

【固定資産】

投資有価証券は、政策保有ポリシーに則り、売却を実施し減少。

【有利子負債】

投資有価証券売却と運転資金の減少により有利子負債は減少。

【自己資本比率】

総資産が減少したため、前期末対比2.8ポイント増。

【DEレシオ】

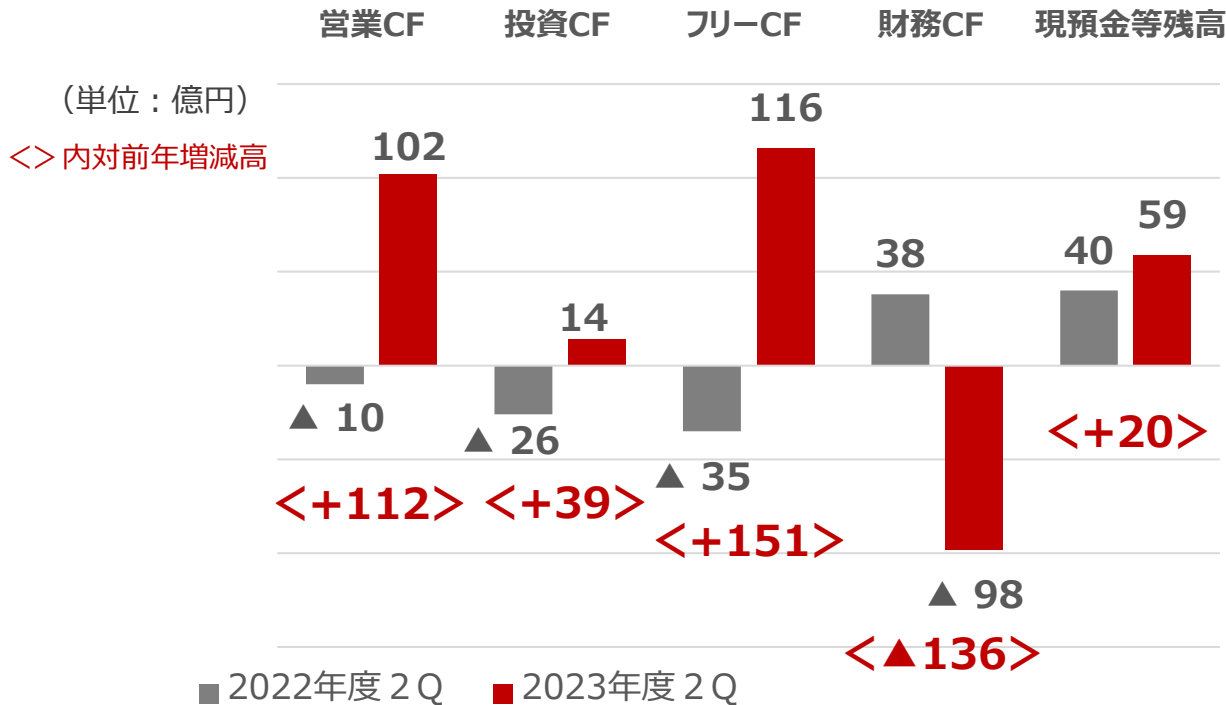
有利子負債が減少し、自己資本も増加したため、前期末対比12.3ポイント減。

<現状の課題認識と今後の対応策>

各種施策により、BSは改善傾向も、原材料価格高騰および2Q以降の需要拡大を見越した在庫確保のため棚卸資産が増加。引き続き、適正な水準での在庫の確保と、債権回収期間の短縮を進めることで、改善を進める。

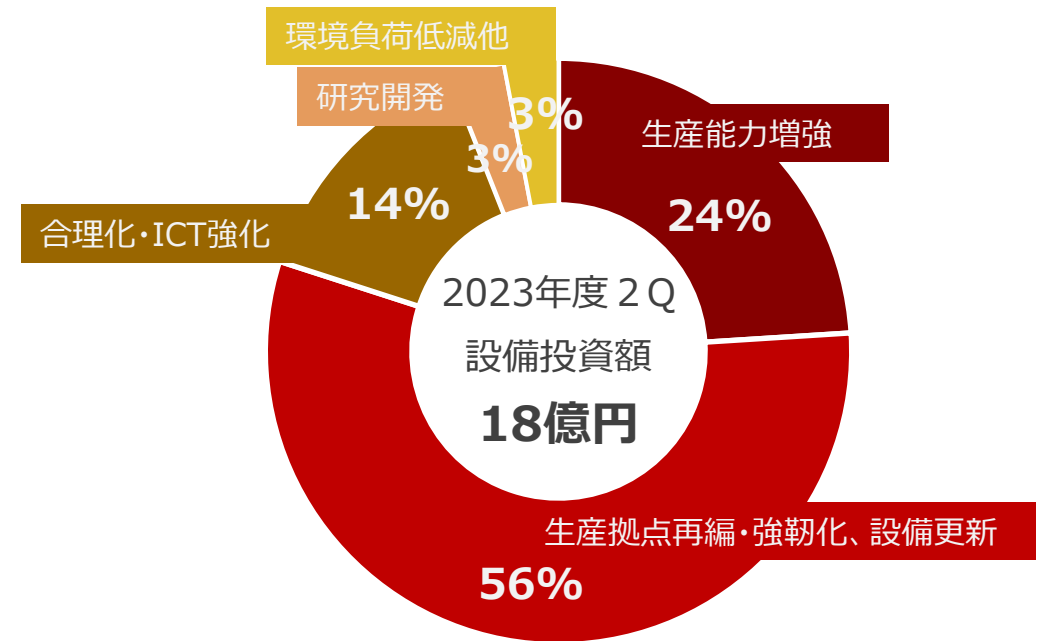
2023年度 第2四半期 連結業績 CFと設備投資額

< 連結キャッシュフロー >



営業CFについては、主に売上債権の回転日数改善による運転資金の減少等により増加。投資CFは、政策保有株式の売却により増加。財務CFは、主に借入金の返済により減少。

< 設備投資額 >

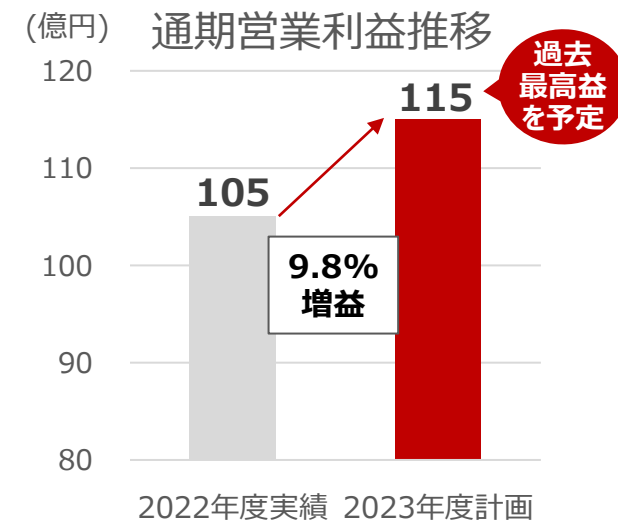
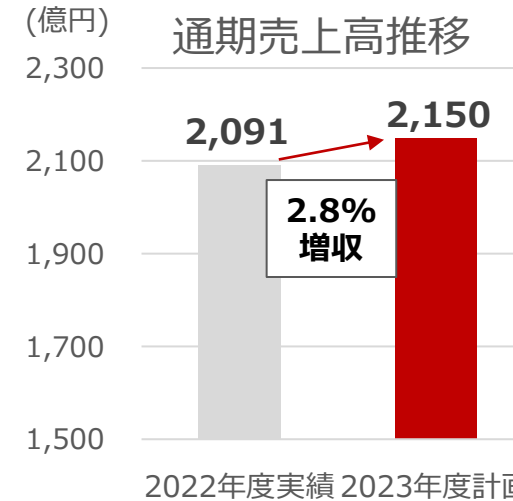
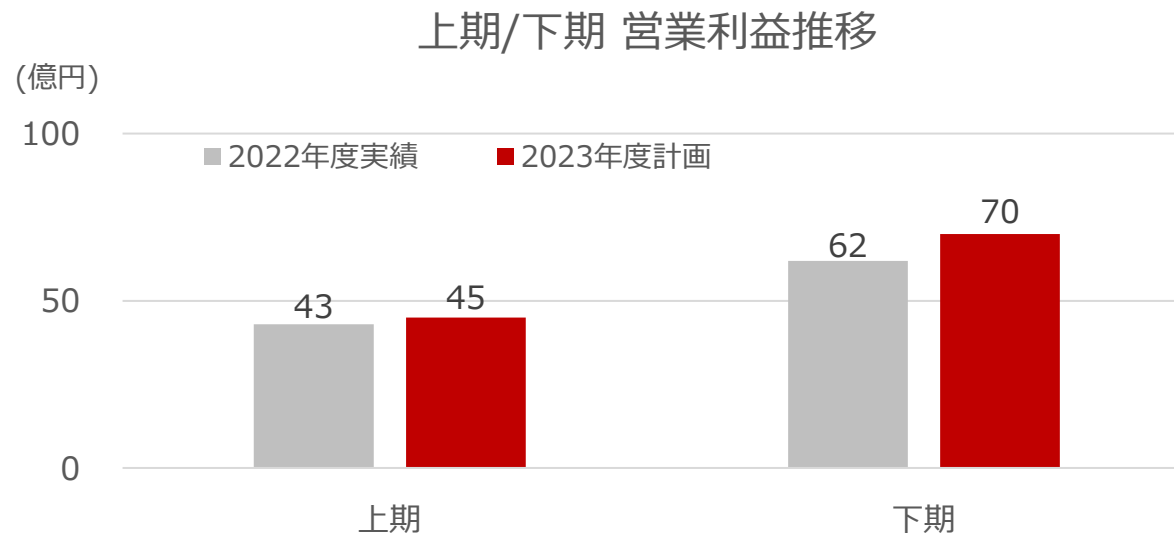
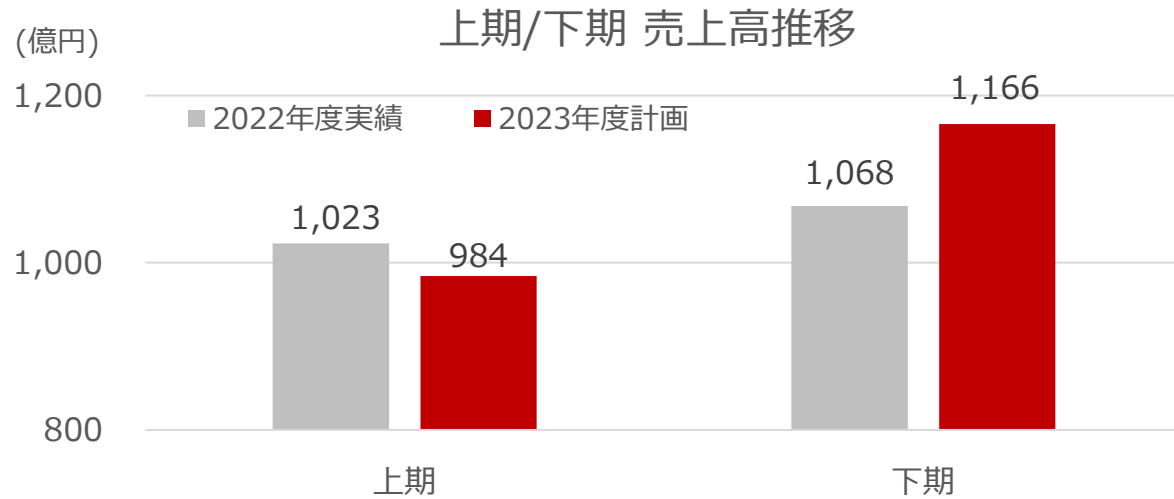


セグメント別内訳

| | |
|--------------|-----|
| エネルギー・インフラ事業 | 7億円 |
| 電装・コンポーネンツ事業 | 5億円 |
| 通信・産業用デバイス事業 | 3億円 |
| その他 | 2億円 |

2. 2023年度通期業績計画

2023年度 通期業績計画（上方修正後）



経常利益

115億円
(前年度対比10.6%増)

親会社株主に帰属する当期純利益

75億円
(前年度対比20.3%減)

配当/配当性向

75円/30%
(前年度対比15円の増配)

中間:35円
期末:40円 合計 75円

セグメント別通期計画の修正

上期進捗は堅調な建設関連により期初想定よりも上振れ。下期の旺盛な需要捕捉も見込み**通期利益計画は上方修正。**

| (単位：億円) | | 2023年度 上期実績 | 2023年度 通期計画 (修正前) | 2023年度 通期計画 (修正後) | 増 減 |
|--------------|----------|----------------|-------------------------|-------------------------|-------|
| エネルギー・インフラ事業 | 売上高 | 536 | 1,135 | 1,200 | 65 |
| | 営業利益 | 33 | 77 | 86 | 9 |
| | 営業利益率(%) | 6.1% | 6.8% | 7.2% | 0.4% |
| 電装・コンポーネンツ事業 | 売上高 | 278 | 660 | 600 | ▲60 |
| | 営業利益 | 9 | 15 | 18 | 3 |
| | 営業利益率(%) | 3.1% | 2.3% | 3.0% | 0.7% |
| 通信・産業用デバイス事業 | 売上高 | 150 | 305 | 305 | 0 |
| | 営業利益 | 7 | 19 | 18 | ▲1 |
| | 営業利益率(%) | 4.6% | 6.2% | 5.9% | ▲0.3% |

2023年度 事業環境認識

| | | 上期 | 下期 |
|--------|-----------|-------------------------------------|--|
| 計画 | 営業利益 | 45億円 (期初計画：35億円) | 70億円 (期初計画：72億円) |
| | 配当 | 35円 | 40円 |
| 事業環境認識 | 建設 | 堅調 | 例年並み |
| | 電力 | 電力工事の下期偏重 | 再エネ系統整備等、需要旺盛な電力案件の集中 SICONEX®増産による拡販 |
| | 自動車 | xEV向け高機能製品は、1Qは調整局面も2Q以降徐々に 需要回復 | xEV向け高機能製品は調整局面からの回復を見込む |
| | 産業用デバイス | 産業用デバイス事業のコロナ特需の剥落 | 中国・東南アジアの需要減少を織り込む |
| | 通信 | 高グレードLANの需要拡大、車載向けFLANTEC®出荷開始 | e-Ribbon®の海外拡販、車載向けFLANTEC®の拡販 |
| | 新規事業(ICT) | 例年並み | ICTの本格化 |

2023年度 通期 増減要因

売上高増減要因



【増減要因】

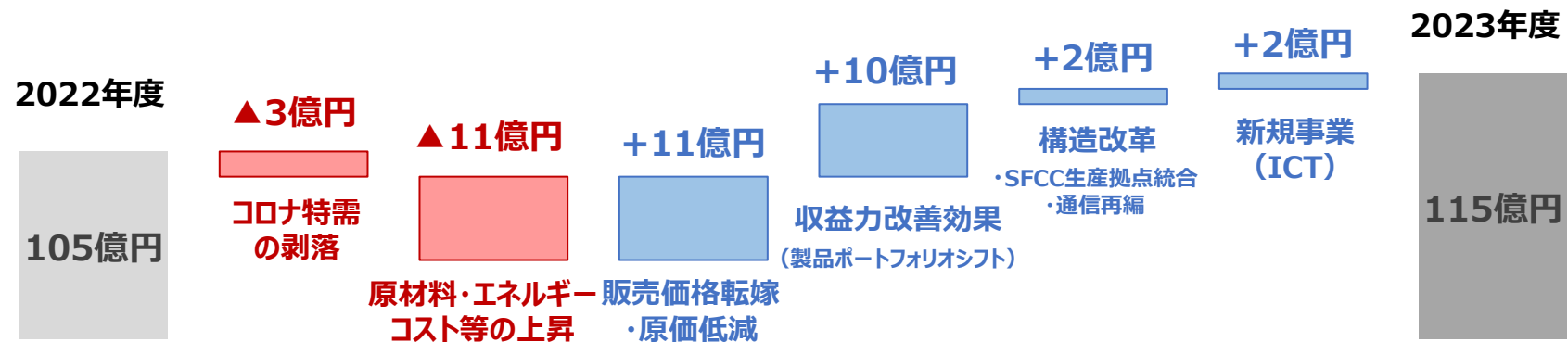
1. 売上高

産業用デバイスのコロナ特需剥落による落ち込みがみられるものの、**建設向けおよび電力分野の好調**により**増収**の見込み。

2. 営業利益

原材料・エネルギーコスト等の上昇に対し販売価格転嫁によりカバー。**収益力改善**や**構造改革効果**に加え、**新規事業 (ICT)** の本格化により**増益**見込み。

営業利益増減要因

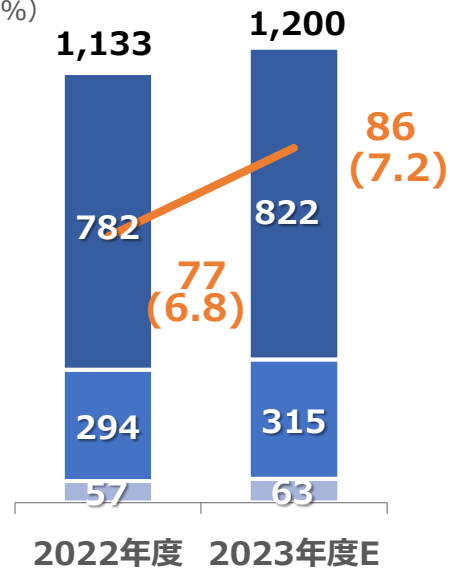


2023年度 セグメント別業績計画

エネルギー・インフラ事業

■ 建設関連 ■ 電力インフラ
■ 免震・その他 ■ 営業利益 () 営業利益率

(単位：億円、%)



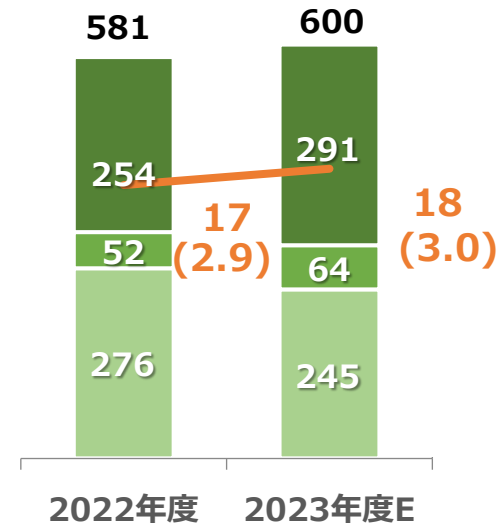
銅価影響：売上高18億円増

- + 要因
- 建設関連の製販事業統合による収益改善
 - SICONEX®の増産投資による売上貢献

電装・コンポーネンツ事業

■ 高機能製品無酸素銅 ■ その他高機能製品
■ 一般汎用製品 ■ 営業利益 () 営業利益率

(単位：億円、%)



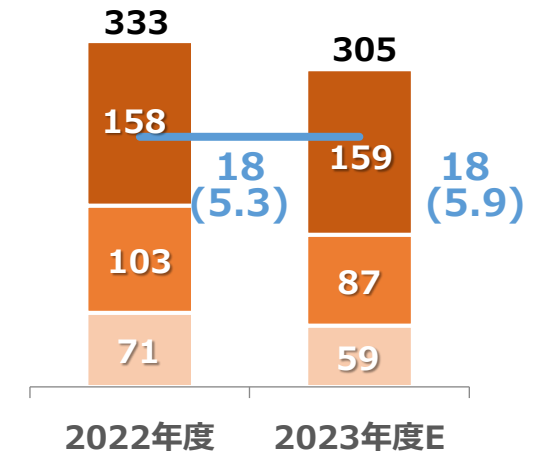
銅価影響：売上高17億円増

- + 要因
- xEV向け高機能製品の下期回復
 - 重電向け需要堅調
- 要因
- xEV向け高機能製品の上期調整局面

通信・産業用デバイス事業

■ 通信ケーブル ■ ワイヤハーネス
■ 精密デバイス ■ 営業利益 () 営業利益率

(単位：億円、%)



銅価影響：売上高1億円増

- + 要因
- 通信ケーブル生産拠点統合効果の最大化
 - 中国ロックダウンの解消
- 要因
- 産業用デバイスのコロナ特需の剥落

2024年問題を見据えた人手不足解消に向けた取り組み

時間外労働時間の上限規制が適用される「2024年問題」が目前に迫るなか、**省力化、省人化、作業効率化を推進。**

製品 ユニバーサルデザイン推進

スキルレスな接続工法



従来、熟練の技術が必要とするケーブル加工を、ユニバーサルデザインの導入によりスキルレス化を実現。

年配者や女性にも扱いやすい製品の提供

製品の低重量化

アンケート調査で浮き彫りになった軽量化ニーズをもとに製品重量の見直しを業界に先駆けて実施。

人 サステナブル人材教育

施工人材開発センターの設立



技術者の早期育成プログラム(DX教材活用・模擬施設訓練・知識習得・現場OJT)構築により優秀な人材を確保。

地産地消型クラウド人材戦略

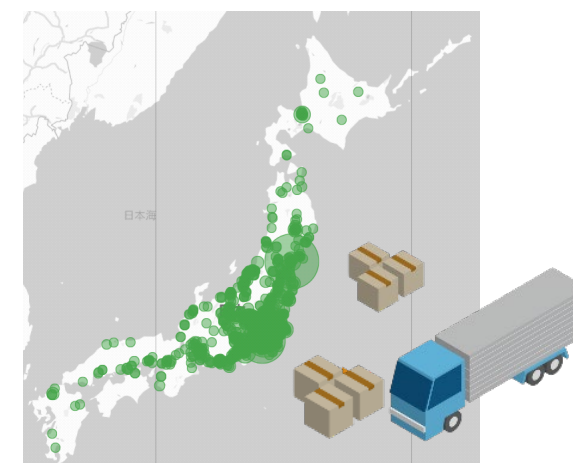
上記センターで教育した人材は、現在北海道から沖縄まで全国に拡大。機動的に案件受注が可能に。

SICOPLUS®人材クラウド



物流 ロジスティクスのDX推進

最適ルート・積載量を視える化

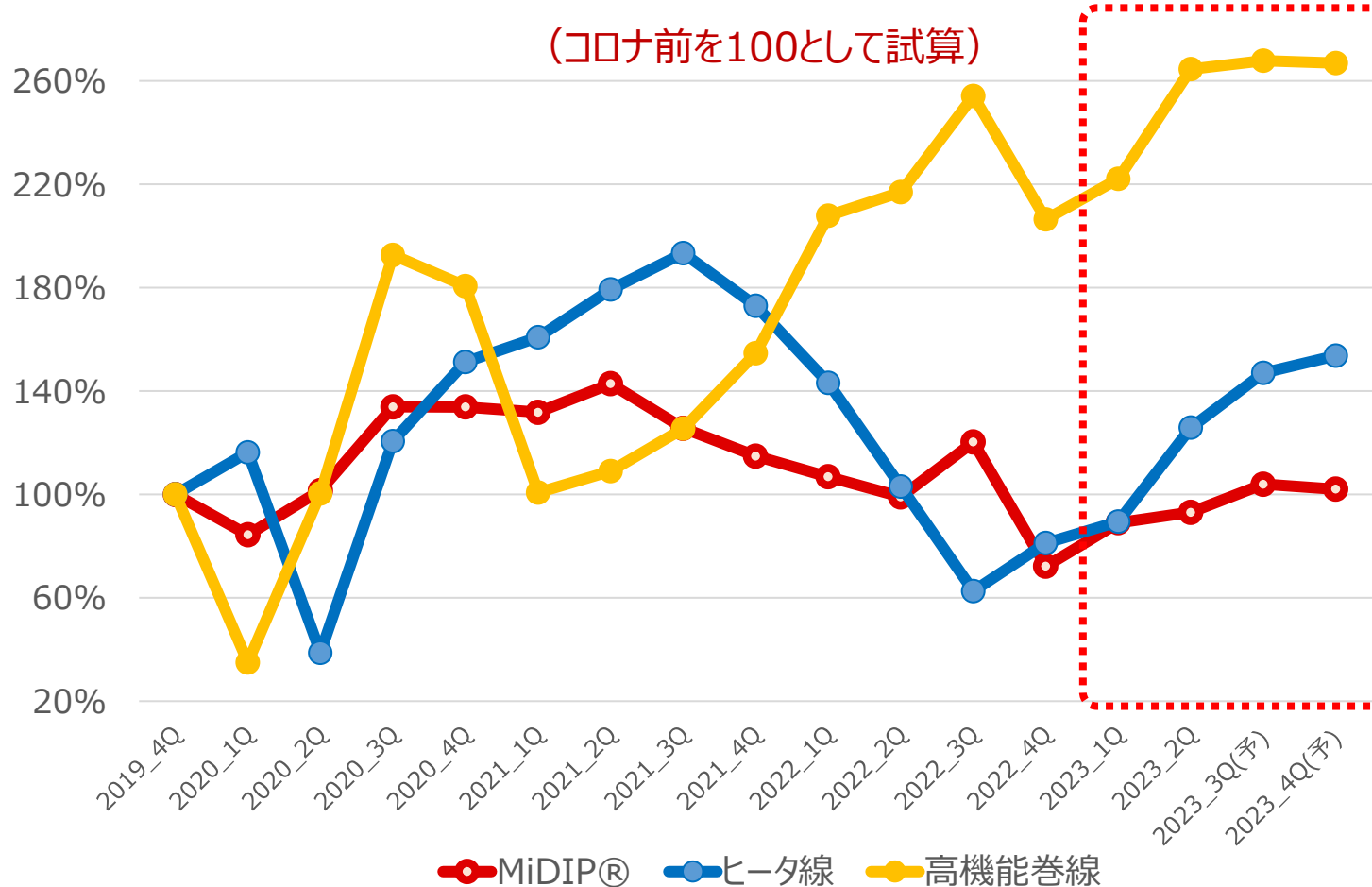


物流を担う子会社(株)ロジス・ワークスを中心に物流体制をDX化。全国の流通センターの配送状況をクラウド化してスマホで共有し、配車管理の業務効率化を推進。

xEV向け関連需要の今期回復見通し

高機能製品カテゴリー別出荷量推移

(コロナ前を100として試算)



● 高機能巻線

欧州向けの需要もあり、1 Q以降増加傾向が続く。

● ヒータ線

滞留していた中間在庫の解消やxEV増産により下期にかけて回復傾向。

● MiDIP®

半導体不足解消およびxEV増産により下期にはコロナ前の需要回復を見込む。

FLANTEC®の主な産業別製品ラインナップと今後の成長予測

国内LANケーブルシェア 4割のブランド力と技術力を生かし、**より収益性の高い製品分野での業績を拡大。**

車載用ツイストペアケーブル



運転支援システムの高度化に伴い、車内の伝送ネットワークにおいて高速化が求められる。
高速伝送を可能にする車載用ツイストペアケーブルを開発。本上期より出荷開始。

Cat.6A規格対応TPCC® 6A(10Gigaコイル)



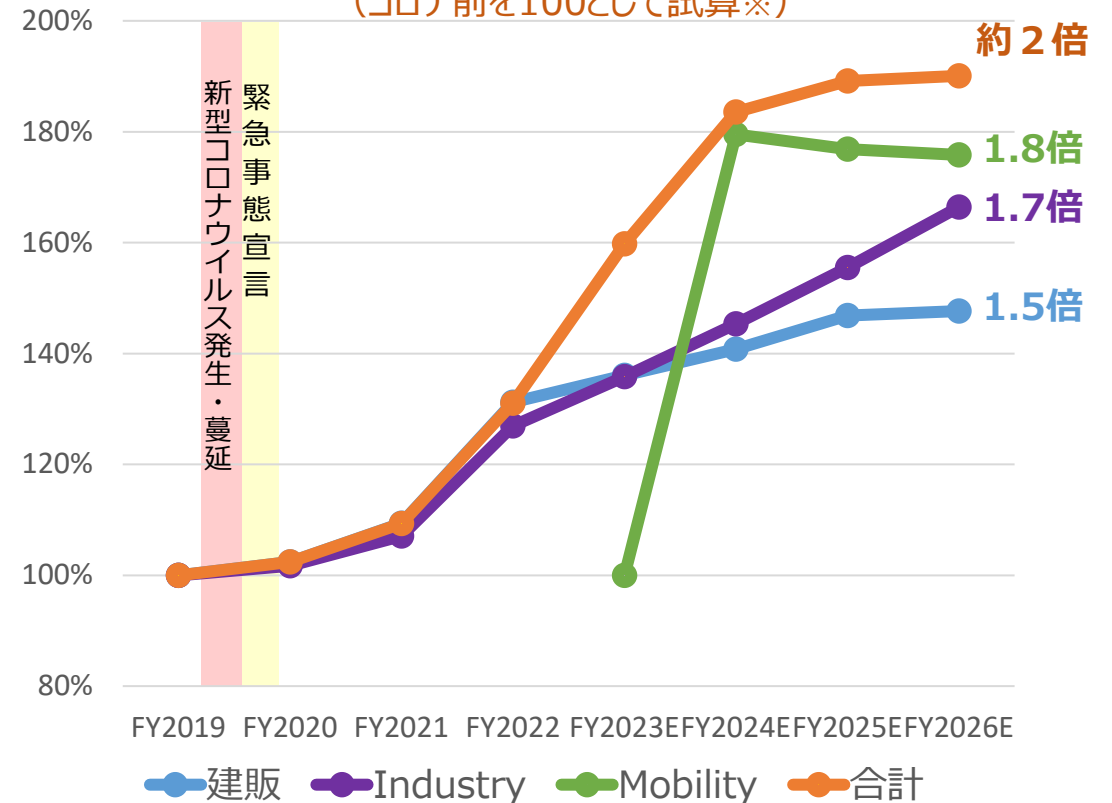
GIGAスクール構想により、10ギガビット伝送に対応した需要が大幅に増加。また、**AI、IoTの活用促進による通信容量の増大により、昨今大幅なリプレイス需要が拡大。**

Cat.8規格対応LAN用ツイストペアケーブル



Cat.6Aの4倍である2,000MHzまでの周波数帯域において安定した電気特性を実現。
40Gbpsという高速・大容量伝送が可能に。
今後の通信容量増大に向けて需要を見込む。

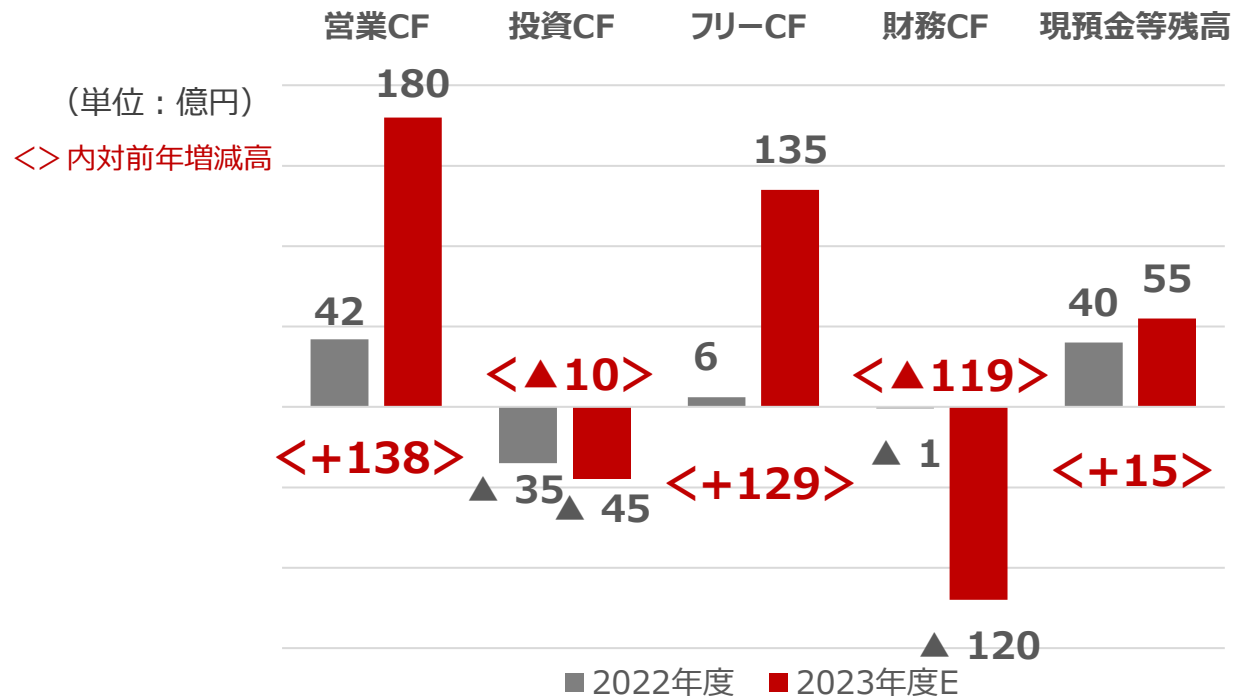
売上高成長推移 (コロナ前を100として試算※)



※Mobilityの売上高は2023年度より発生のため2023年度を100として試算

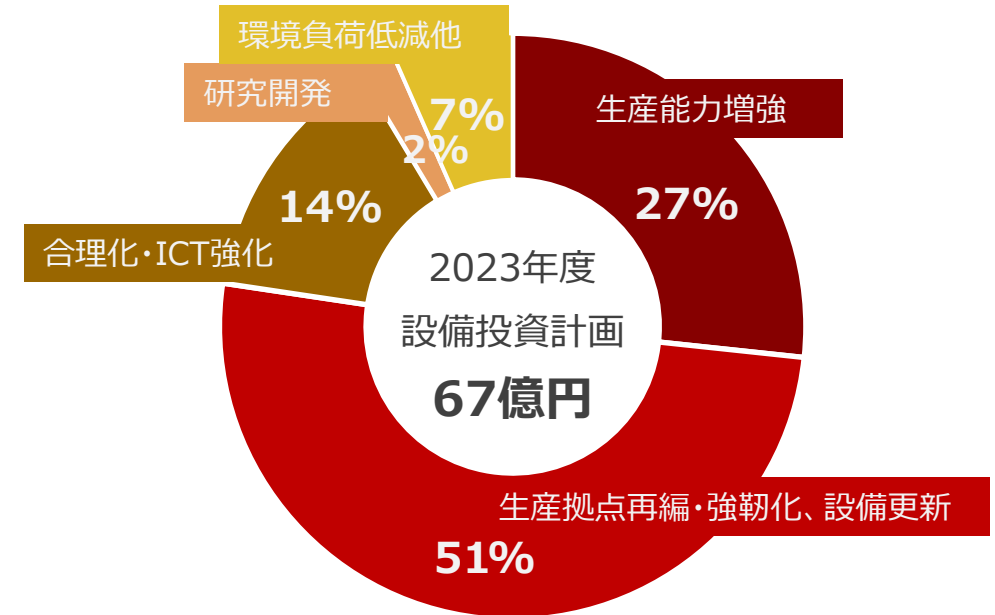
2023年度連結業績CF予想と設備投資計画

< 連結キャッシュフロー >



2023年度の営業CFは運転資金の圧縮により増大
投資CFは、設備投資の増加により支出増加

< 設備投資計画 >



セグメント別内訳

| | |
|--------------|------|
| エネルギー・インフラ事業 | 25億円 |
| 電装・コンポーネンツ事業 | 18億円 |
| 通信・産業用デバイス事業 | 10億円 |
| その他 | 14億円 |

3. 「資本コストを意識した経営の実現に向けた対応」の進捗

今後の成長に向けた取り組み

SWCCパーパス（存在意義）

いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。

当社グループは、「時代の変化に対応し、新たな価値を創造していく」というメッセージを込めて社名変更に伴いパーパスを策定しました。
事業を通じて、持続可能なより良い未来作りに貢献してまいります。

パーパスを基軸に、持続的な「企業価値」と「株主価値」の創出を行い

**ROE 10%を下限として、
ROIC 10%以上、PBR 1倍以上、配当金額 120円以上の早期実現を目指します**

事業戦略

- 社会課題解決型ビジネスの推進と事業ポートフォリオの最適化

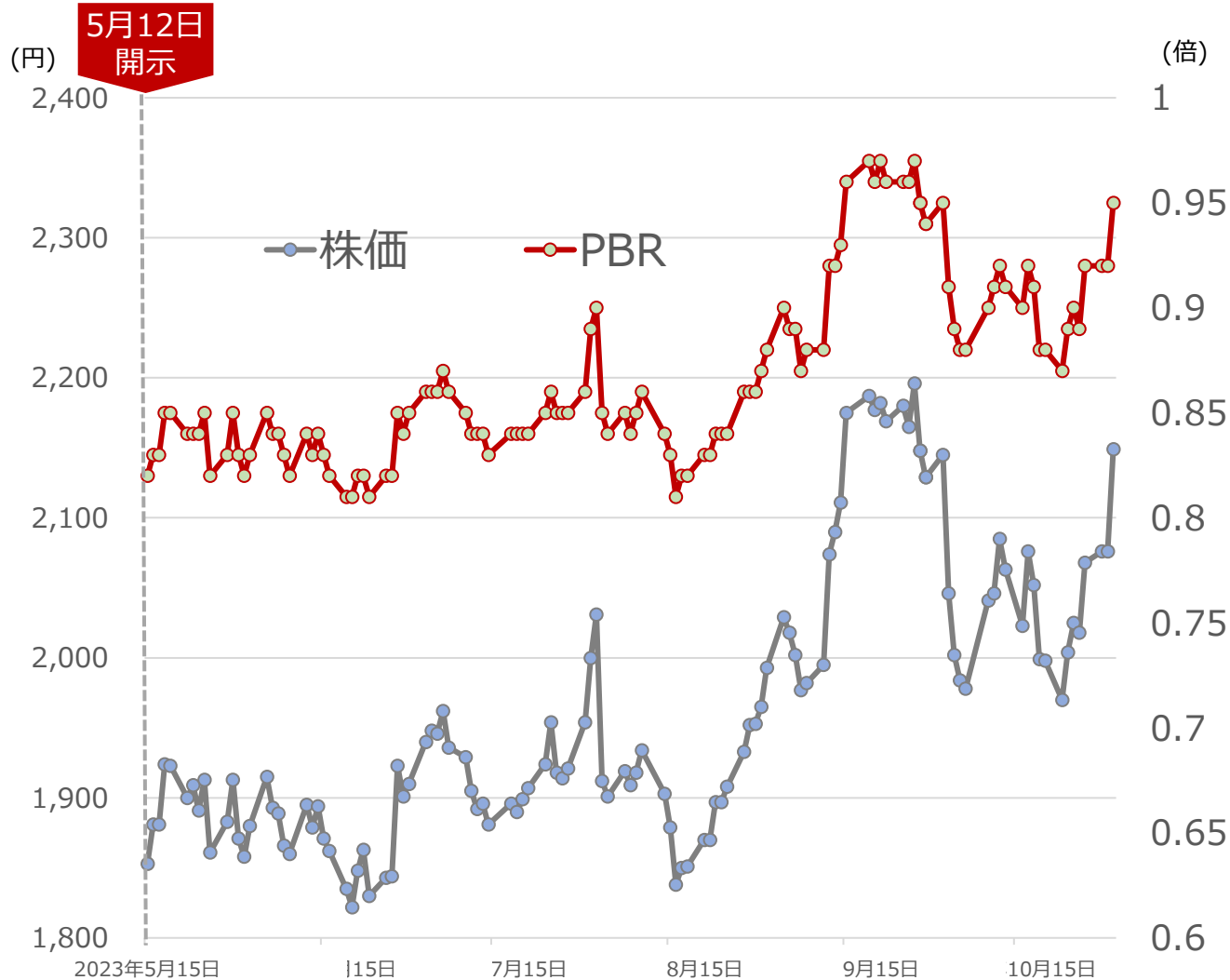
財務戦略

- 財務・資本戦略の全体像
- 投資戦略と株主還元方針

非財務戦略

- 持続可能な成長を支える人的資本戦略の推進
- 脱炭素社会への貢献

「資本コストを意識した経営の実現に向けた対応について」5月開示後の施策と株価推移



5/12開示後の主な取り組み

- 9/4 「中計ローリングのポイント」に関する説明会実施**
 当社グループの今後の成長戦略を投資家に説明。HPにてアーカイブ公開。
- 9/11 政策保有株式の売却**
 政策保有株式を一部売却し、連結純資産比率10%未満まで縮減。
- 9/29 統合報告書発刊**
 当社グループの事業活動と価値創造の源泉を非財務情報を中心に公開。
- 11/2 中間配当実施の決議**
 普通株式1株につき35円の配当を決議（通期配当75円予定）。
- 11/2 自己株式取得による資本効率向上と株主還元強化の取り組み**
 資本効率改善施策（政策保有株式売却）を通じて取得した資金の一部を株主還元。
- 11/2 ESOP導入の取り組み**
 従業員に対する福利厚生制度の充実および当社グループの中長期的な企業価値向上に係るインセンティブの付与を目的に導入。

現状分析①：資本効率を踏まえた構造改革による収益性改善の変遷

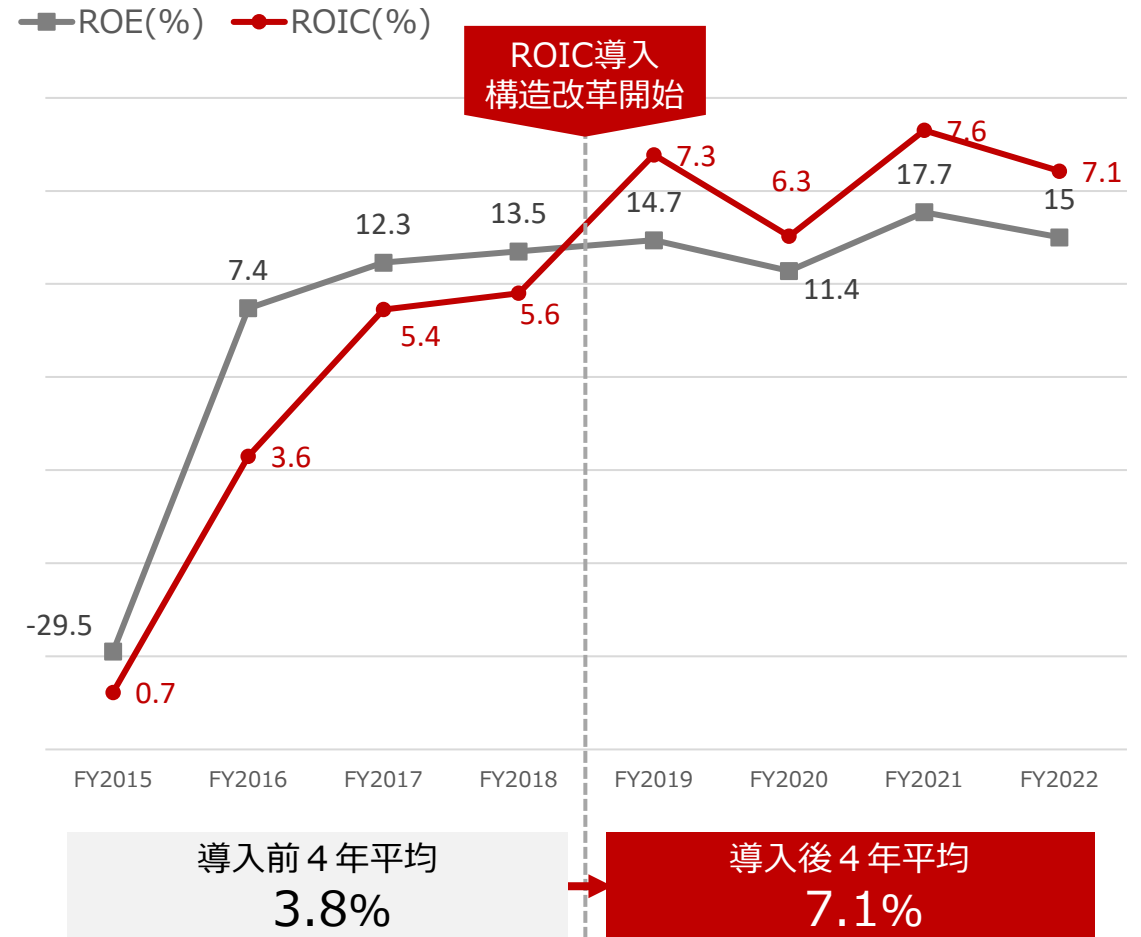
2019年度にROICを導入し構造改革を開始して以降順調に収益性を改善し、**ROE・ROICともに向上**。

～ 主な国内生産拠点の再編と不採算事業の撤退～

- 2019年度 昭和電線ユニマックを完全子会社化
- 2020年度 昭和電線ユニマックに多摩川電線を吸収合併
ゴム線事業の売却
ダイジの解散
- 2021年度 制振制音事業の昭和サイエンスへの移管
ロジス・ワークスに昭和リサイクルを吸収合併
通信ケーブル拠点再編・青森昭和電線の解散
海老名工場の売却
- 2022年度 建設関連のSFCC製販事業統合

<収益改善の成果>

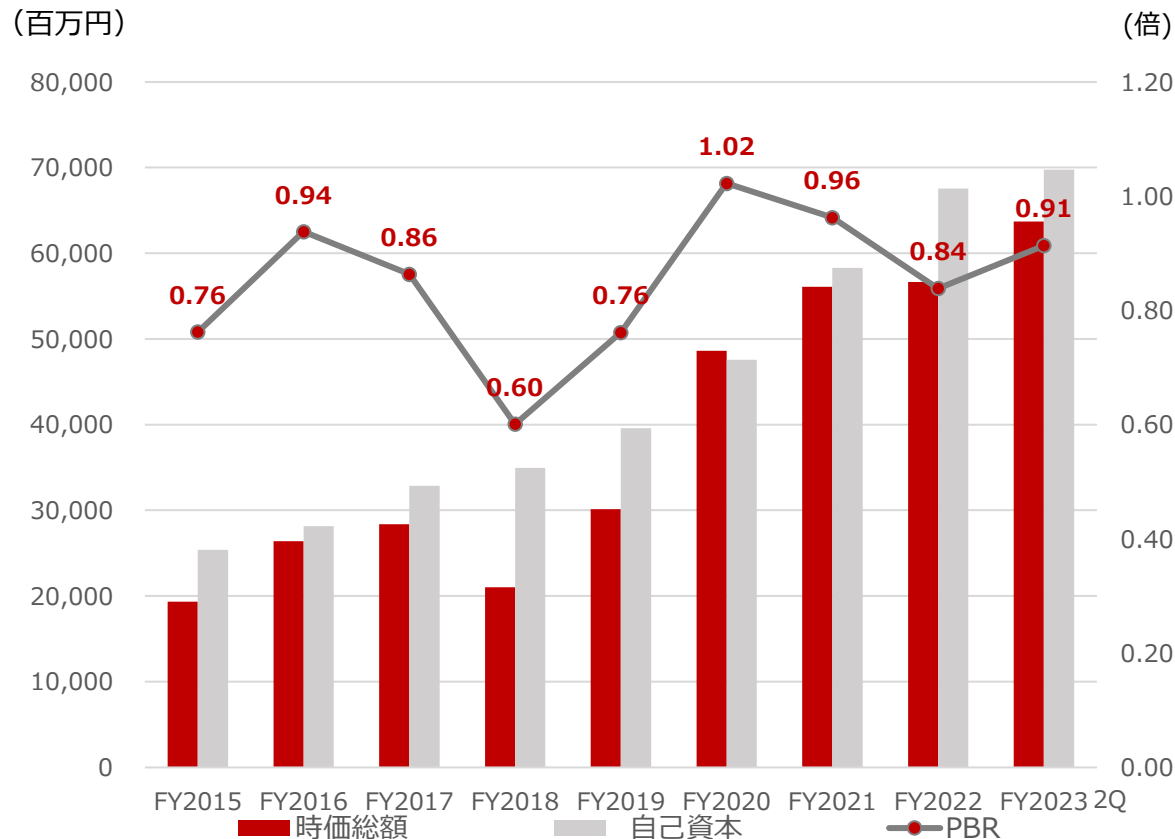
| | FY2020 | FY2021 | FY2022 | 累計 |
|---------------|--------|--------|--------|----|
| 制振・制音事業統合 | | 1 | 1 | 2 |
| SFCC製販事業統合 | | | 3 | 3 |
| 巻線事業の合理化 | 3 | 3 | 3 | 9 |
| ワイヤハーネスの海外シフト | 5 | 7 | 7 | 19 |
| 通信ケーブル生産拠点再編 | | 3 | 8 | 11 |
| 合計 (単位：億円) | 8 | 14 | 22 | 44 |



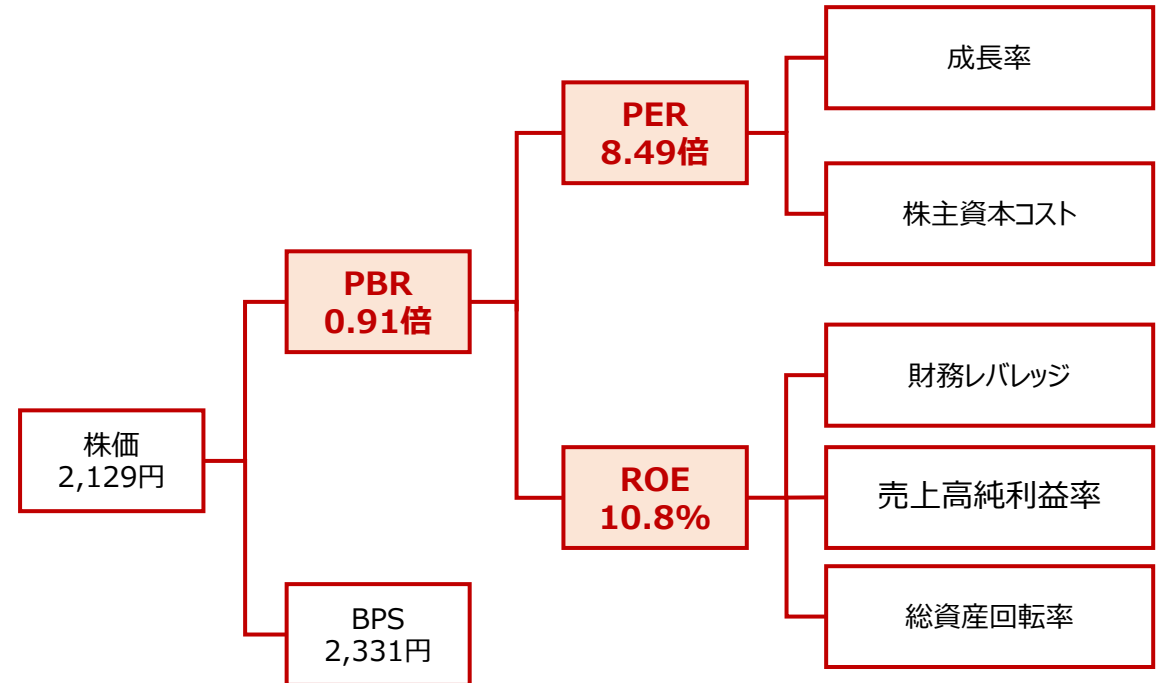
現状分析②：市場評価の変遷とPBR要素の分解

収益性の改善に伴いPBRは上がるも直近は1倍を下回る。また、PERの水準から当社の成長性に対し市場の評価は低いと想定される。

時価総額・自己資本・PBR



PBR要素の分解



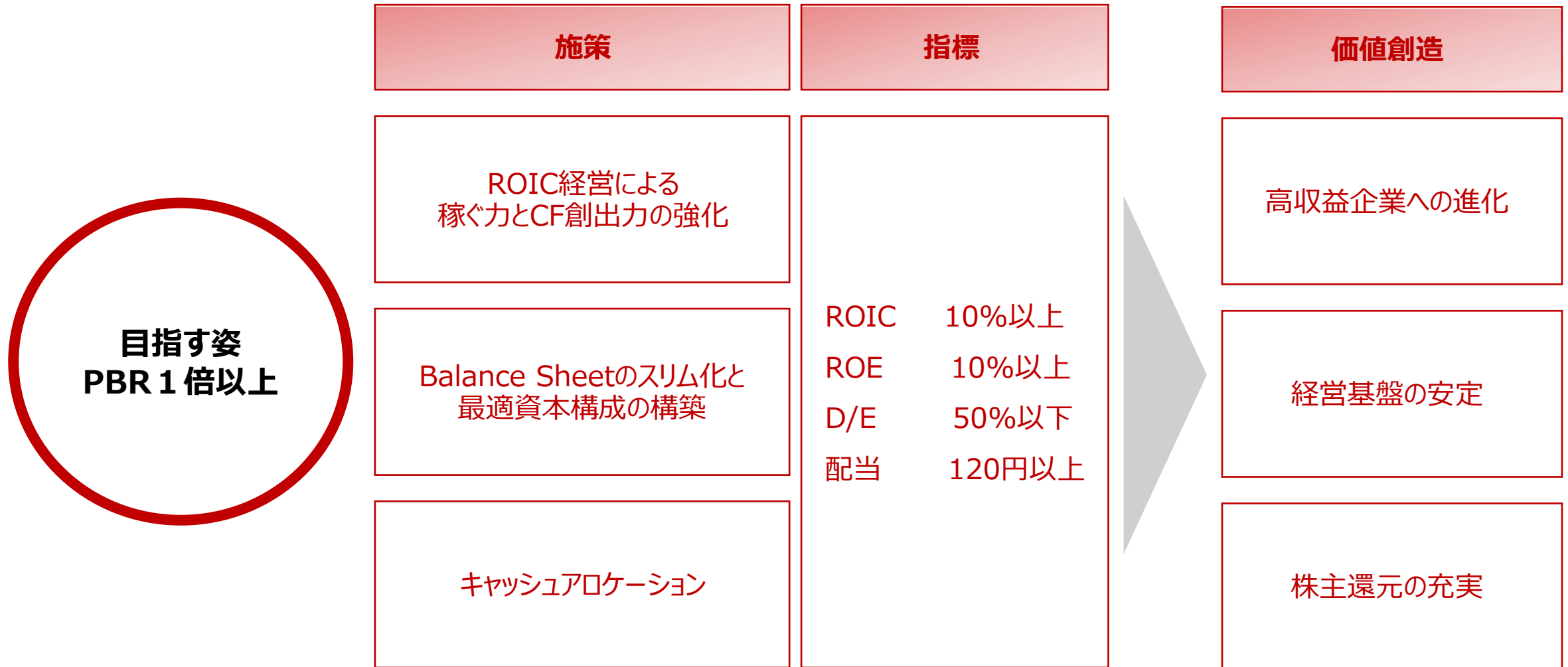
※株価は2023年9月29日終値。
 ※各種指標は9月末残高をベースとする。但し、利益率については通期公表値。

「事業戦略」 社会課題解決型ビジネスの推進と事業ポートフォリオの最適化

成長牽引事業と基盤事業への集中投資と事業構造改革を推進しさらなる利益の創出を図る。また、コア技術をベースに新市場・新領域に向けてビジネスを発展。オープンイノベーション、社内ベンチャー・M&Aを活用し事業を拡大。

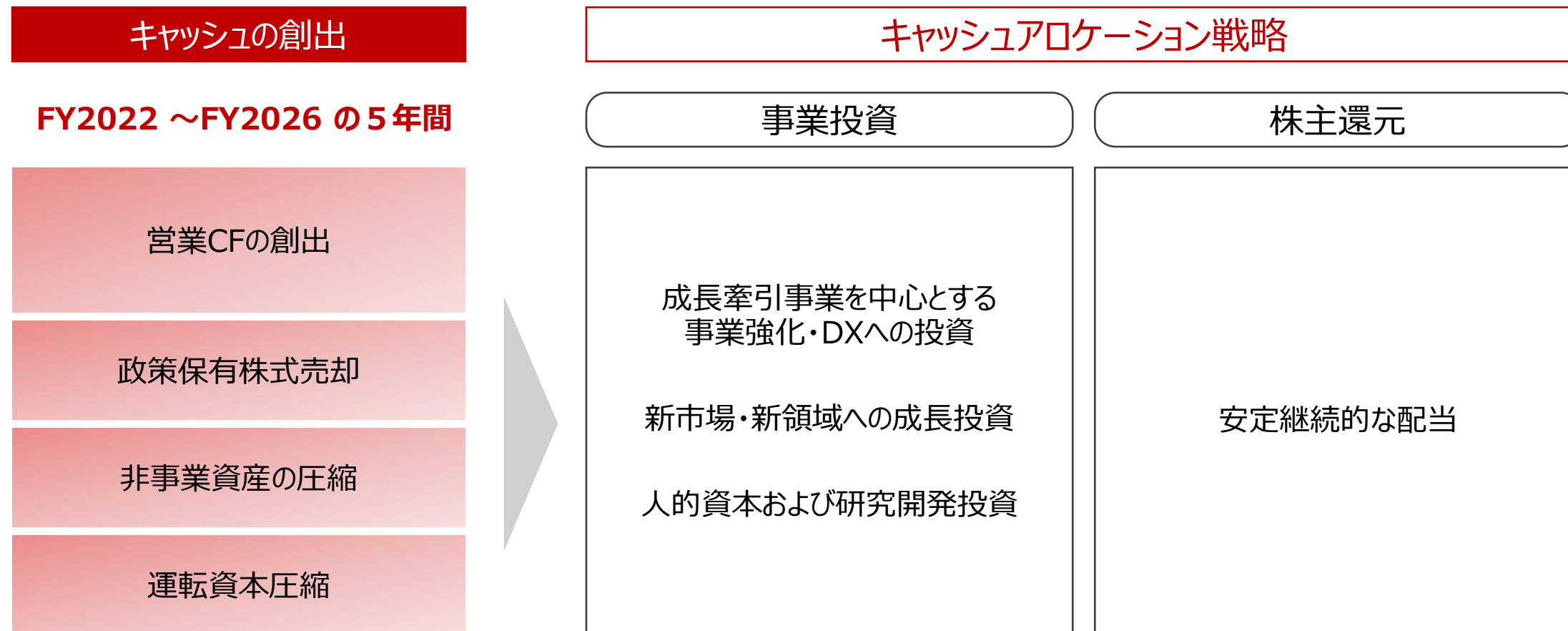


「財務戦略」 財務・資本戦略の全体像



「財務戦略」 投資戦略と株主還元方針

創出したキャッシュを基盤事業の強化ならびに新市場・新領域に向けた成長投資と株主還元に向けて適切に配分。



「非財務戦略」 持続可能な成長を支える人的資本戦略の推進

■ダイバーシティマネジメント

- 「女性活躍推進プロジェクト」から「ダイバーシティ推進プロジェクト」へ
 - ・2021年4月発足のプロジェクトに、2023年4月から男性メンバーを追加しアンコンシャス・バイアスへの気づきを与える取り組みを推進。
- 定年延長・選択定年制の導入
 - ・経験豊富なベテラン社員が安心して働ける環境を構築。

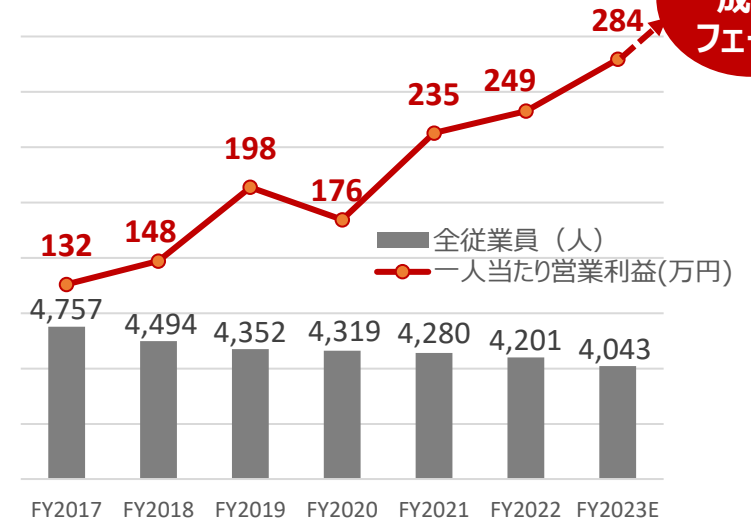
■エンゲージメントの向上

- 会社と従業員の要望をマッチングさせる制度の拡充
 - ・適材適所の人材配置のため、ジョブチャレンジ制度・社内公募制度の拡充。
- 挑戦を促す処遇制度の整備
 - ・挑戦する従業員の努力や成果がより適正に反映される処遇制度への移行。
- 働きやすい職場作り
 - ・テレワーク、フレックスの推進。健康増進アプリ、サンクスポイント導入。

外部機関からの評価



一人当たり営業利益と従業員数

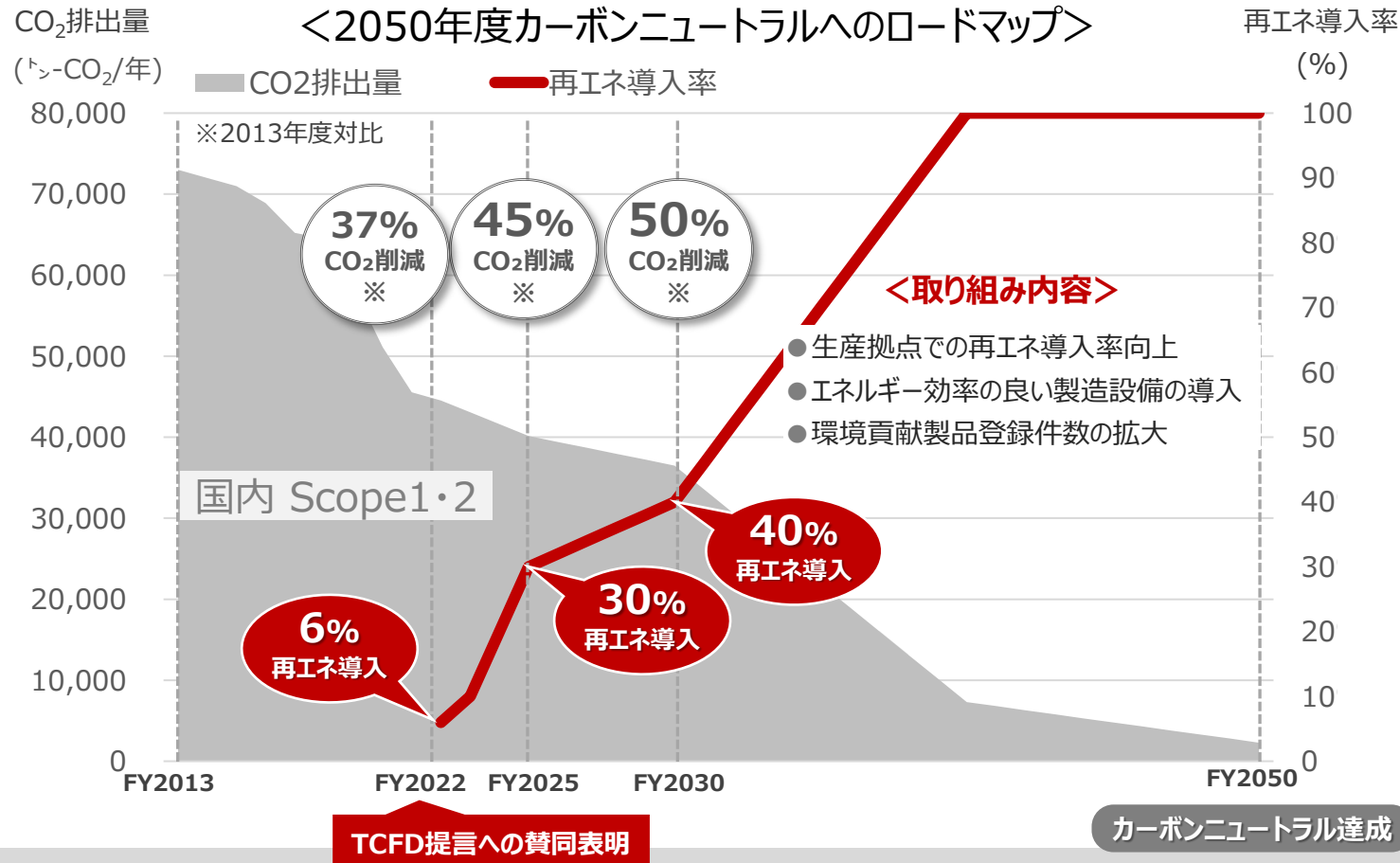


さらなる
成長
フェーズ

※FY2023の人数は2023年9月末時点で試算

「非財務戦略」 脱炭素社会への貢献

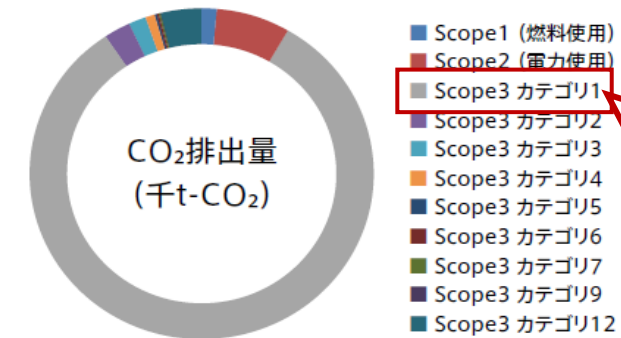
国内の製造拠点における再エネ導入や非化石由来エネルギー調達の促進、新技術による高効率・省エネ設備の導入、お取引先との協力による材料由来の排出量削減など各種施策を実行し、2050年カーボンニュートラル達成を目指す。



<2022年度実績>

| GHGプロトコルの算定範囲 | CO ₂ 排出量 (千t-CO ₂) |
|------------------------------------|---|
| Scope1 (燃料使用) ※5 | 8.8 |
| Scope2 (電力使用) ※5 | 40.5 |
| Scope3 | |
| カテゴリ1. 購入した製品・サービス | 478.3 |
| カテゴリ2. 資本財 | 15.4 |
| カテゴリ3. Scope1、2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動 | 9.7 |
| カテゴリ4. 輸送、配送(上流) | 4.1 |
| カテゴリ5. 事業活動から出る廃棄物 | 1.8 |
| カテゴリ6. 出張 | 0.8 |
| カテゴリ7. 雇用者の通勤 | 0.9 |
| カテゴリ9. 輸送、配送(下流) | 0.1 |
| カテゴリ12. 販売した製品の廃棄 | 21.8 |

※5: 国内全拠点対象



材料由来の排出量が最多。お取引先との協力のもと、今後削減を強化。



SWCC株式会社

<https://www.swcc.co.jp>

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。